

ながおか・放課後子ども通信

令和4年3月9日発行(vol. 3)

長岡市教育委員会 子ども未来部 子ども・子育て課 ☎0258(39)2393

ともに児童理解を深め健全育成、自立に向けた支援を

栖吉コミュニティセンター長
兼 児童館長 佐藤 修一



この3月、地域に立ち上がったボランティア団体が、子ども食堂をプレオープンしました。聞けば、他に市内2か所でもプレオープンするといひます。対象は子どもたちだけではないそうですが、「失われた30年」という言葉を聞くと、社会の変化が子どもたちにも大きな影響を及ぼしてきたことがよくわかります。1950年代に目にした、家族総出の田植えや雪下ろし・除雪の光景は、はるか遠い昔のことのようです。そして、地域で遊ぶ子どもたちは年々少なくなってきました。

栖吉児童館は、市内では2番目になる1985年(S60)にできた児童館です。当時地元の小学校には731名の児童がおり、その数は現在の倍ですから、本当に驚かされます。また、栖吉児童クラブは2000年(H12)に発足しましたが、最初の頃は一桁だったという登録児童数は、年々増え、新年度はついに110名超の予定です。たとえ人数が増えても、学校とはきちんと連携し、下校確認等をおして情報交換をさせてもらっています。

長岡市は児童クラブを、保護者の就労などで留守家庭となってしまう子どもたちの安全・安心な居場所、また生活の場と位置付けています。子どもの自立に向け、心身の発達期に応じた安全・安心な場所であること、見守る大人がいることは、子どもの成長にとって重要です。それだけに、実態に見合ったスペースや見守る職員の確保は欠かせません。特にCovid-19が県内で発生して足掛け2年、変容した社会の中で、その確保や支援の工夫の難しさを痛感しています。

学校の先生とは異なる厚生員は、子どもたちから、時に悪態をつかれることもありますが、いつの間にか先生と慕う子どもたちの姿に厚生員への厚い信頼感を感じます。また、保護者の迎えを心待ちにし、「元気でいたよ」「いい子でいたよ」とアピールする子どもの姿に保護者への絶対的な愛を見るような気がします。保護者とは、その日の子どもの様子を一言ながらもきちんと報告し合い情報交換に努めています。

児童クラブは、今後も社会の変容に様々な影響を受けていくものと思われませんが、学校、保護者とともに児童理解を深め、子どもたちの健全育成、自立に向けた大切な支援の場、成長の場であり続けたいと日々考えています。

旬の話題…児童クラブの運営改善に向けた取り組み

児童クラブ(児童館の児童クラブ的利用)の運営にあたり、「児童」「保護者」「児童館長・児童厚生員」が一体となって、過ごしやすい「生活の場」を実現させるため共通指針となる『放課後児童クラブのしおり』を、昨年9月に作成しました。関係者の役割を明記しましたので、内部での情報共有や、保護者説明会等で活用していただければと思います。



また、児童クラブの持続可能な運営に向け「子ども子育て会議」内に、ワーキング部会を立ち上げ、今後の在り方の検討を進めております。メンバーは、子育て支援関係者、PTA、児童館長、厚生員、主事等の代表者で構成されています。秋に実施したアンケート結果や進捗については、情報が整理され次第、本通信等を通じて報告させていただきます。

子どもたちが「主体的に活動する」放課後児童クラブ

<読書のすすめ：児童クラブで「図書委員会」発足！>

どこの児童館・児童クラブにも児童用図書が置いてあります。ですが、子どもたちが、それらの本を手にとってじっくりと読書を楽しむ時間はありますか…。読書は、創造性を膨らませ感性を育むとともに心の安定につながることから、朝読書に取り組んでいる学校も多くあります。

児童クラブでも「読書のすすめ」に取り組んでいるところがあります。ここでは、学校で委員会活動を見聞きしている子どもたちが、図書委員会を立ち上げて、本の整理や読み聞かせをしています。児童厚生員も、子どもたちの主体的な活動を温かく見守り、支援しています。年度末を迎える今、委員会の引継ぎも予定しているとか。そんな日越児童クラブの取組を紹介します。



【読み聞かせ はじめま〜す!】

「学校と共にある地域」を思い、創立以来、多くの方が読み聞かせボランティアとして学校を訪問しています。読み聞かせを通して、人の輪でつながっていることを実感しています。

地域の宝である子どもたちが、地域と緩やかにつながるサイクルを生むことで、子どもたちにとって安全・安心な居場所になることを目指しています。



徳茂館長

<実効性のある児童厚生員研修を目指します>

11月の基礎研修会では、専任厚生員の役割と心得を学ぶとともに、日々の業務を振り返り、今後に生かすための情報交換を行いました。

2月の全体研修会では、すぐに手が出る子どもや遊びのルールを自分ルールに変えてしまう子どもなど、どの児童クラブでも起こり得る事例検討をしました。参加者からは有意義だったと好評でした。

コロナ禍ではありますが、今後も、現場の声や現状に即した研修を計画していきたいと思えます。



【活発に意見交換した研修】

子どもたちが「社会とつながる」放課後子ども教室

新町放課後子ども教室では、平成30年から長岡まつり平和祭の「仁和賀パレード」に参加してきました。しかし、コロナ禍のため、令和2・3年と平和祭は縮小され、パレードはなくなりました。そこで、今年度は内容を変更し、長岡地域の医療現場の最前線で活躍してくださっている方々に、感謝の気持ちを込めた「医療従事者応援パネル」を作成し、展示会を行いました。

<新町放課後子ども教室 活動日誌より>



作成したパネルは、長岡赤十字病院・長岡中央総合病院・立川総合病院の3基幹とさいわいプラザ及びアオーレ長岡を巡回しました。設置の際には、マスコミの取材を受けたり、病院職員の方々とコミュニケーションを取ったりするなど、有意義な機会を得ました。

この活動を通して、子どもたちは、このプロジェクトの意義「社会とつながる」を再確認しました。

『親も育つ子育てセミナー』 横澤 富士子 様 子育ては夢づくり！



家庭教育講座『親も育つ子育てセミナー・講演会』を、11月20日に開催しました。講師は学校カウンセラーの横澤 富士子様（お笑いタレントの横澤夏子さんのお母さん）です。演題は『母の幸せ 子どもの幸せ 親も子も夢に向かって一歩、一歩～横澤家の子育ては明るく楽しく でも、頑張りすぎない！～』です。

日々の面談では「子どもの成長過程は、甘え（依存）と反抗（自立）の往復です。親に十分甘えて安心感をもった子どもは、やがて不自由さを感じ、自由になりたいと思います。それが反抗であり、自立の世界に向かいます。でも、自分の道を進んでいくと再び不安を抱くようになり、依存の世界に戻って来ます。これを繰り返していくことで、真の自立に向かっていくのです」と伝えているそうです。

「子育てに正解はない、あせらず、じっくりと、我が家の親子関係を築いていってほしい」これは、横澤家の子育てそのものでもあります。芸人を志した夏子さんとの関係、親子の葛藤、ジレンマ、そして今日、娘の成功をひたすら応援する母の思いや願いを、失敗談も含め、楽しくも赤裸々に語っていただきました。

参加者からも「夏子さんの高3の頃のエピソード、今4才の子どもと重ねてしまい、涙が出そうになりました」「自分を大事に、子どもも大事にと、何とか自己肯定感を高めていきたいと思いつつもできない自分が情けなく、そんな時、テレビで夏子さんを見かけたら、横澤さんの言葉を思い出して、頑張ってみます」などの感想が寄せられました。

最後に「親は子どもの成長に夢を重ねていき、子どもも自立しながら自分の夢をふくらませていきます。子育ては、まさしく親と子の夢づくり、山あり谷あり、でも一歩一歩を踏みしめていってほしい」という熱い思いが参加者に届けられました。



【相談に応える横澤さん】

若者の成長に期待と願いを込めた『街頭育成活動』 本年度で幕を閉じる！

＜各地域代表 感謝の言葉＞



長岡地域代表
鳥羽 貴仁 様

昭和39年に始まった長岡市の少年補導活動は、平成18年に補導が育成に名称変更され、以来青少年育成員として、愛の声掛け活動を日中及び夜間と実施してきました。このたび令和4年3月31日をもって、その長きにわたる奉仕活動を終了することとなりました。この間、活動に従事された皆様の青少年に対する慈愛の心とご努力に深い感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。



栃尾地域代表
井上 眞一 様

長年に渡り、地域の皆様から、ご理解とご協力、そして、温かいご指導を頂きながら活動が出来ましたことに感謝申し上げます。

「子どもたちの健全なる成長を促進する」という目的のもと、「温かい声掛け、見守り」をとおし、この育成活動を実践して参りました。

これからも、決して「過ち」はあってはなりません。今後は、お一人でも多くの方から「声掛け、見守り」を頂き、子どもたちの支えとなれば幸いです。

ぜひとも、ご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。

学生ボランティアによる学習支援も実施中！『子どもみらい食堂』

長岡市内には「子ども食堂」が13か所、準備中及び検討中の食堂が3か所あり、それぞれ工夫を凝らした活動を展開しています。

今回は食事（現在はコロナ禍のため配食）と学習支援を主に、様々な団体（子ども食堂ネットワークむすびえ、社協ボランティアセンター他）と連携して活動をし、地域全体で子どもたちの健全な成長を助けることを目的としている「子どもみらい食堂」を紹介します。

お弁当の配食は月2回（毎回200食程度）を提供しており、利用者に大変喜ばれています。学習支援は週2回実施しており、小学生から高校生を対象に、大学生・専門学校生・高校生の学生ボランティアの協力により、和気あいあいと勉強に取り組んでいます。

子どもみらい食堂（場所：長岡聖契キリスト協会内）

配食：第2・第4土曜日 午前11時から正午 料金：子ども100円 大人300円

学習支援：毎週水・金曜日 午後6時から7時20分まで 料金：無料



【学習支援の様子】



【元気で優しい調理ボラの皆さん】



【ハロウィンイベントにて】

子どもの貧困対策 「ヤングケアラー」を知っていますか？！

ヤングケアラーといわれる子どもたちは、「勉強に励む時間」「部活に打ち込む時間」「将来に思いを巡らせる時間」「友人との他愛ない時間」など、「子どもとしての時間」を引き換えにしています。

今、周りにいる大人がその状況に気付き、声をかけ、手を差し伸べていくことが大切です。『子どもが子どもでいられる街～みんなでヤングケアラーを支える社会～』づくりに、市としても取り組み始めます。

まずは、身近なところにヤングケアラーがいないか、意識を高めていきたいものです。



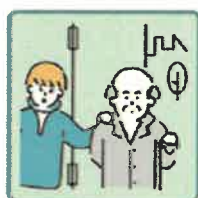
障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもとの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

【ヤングケアラーの現状】